

セミパラチンスク核実験場閉鎖
25周年記念国際会議
滝沢外務大臣政務官ステートメント

ナザルバエフ カザフスタン共和国大統領閣下
トカエフ上院議長閣下
イドリソフ外務大臣閣下
ご列席の皆様

記念すべきこの国際会議に参加し発言できることを光栄に思います。

71年前の広島・長崎での原爆投下により多くの尊い命が奪われました。残されたものも後遺症に苦しみ、多くの者がその後命を落としました。原爆投下は、人道上極めて遺憾な事態をもたらしました。その後も、ビキニ環礁における核実験により、日本の漁船が被曝し死傷者が生じています。

我が国は、カザフスタン同様、被爆の実相を誰よりも知っています。このようなことが二度と起こらないよう、両国は、核兵器のない世界を目指して努力しています。

本年3月にナザルバエフ大統領がマニフェスト

を発表しましたが、核軍縮や世界の安全保障に向けた大統領の姿勢は非常に心強いものです。

日本は、核軍縮の進展のためには、核兵器使用の非人道性に関する正確な認識と、安全保障環境に関する冷静な認識という2つの認識を基礎とし、核兵器国と非核兵器国の協力の下、現実的かつ実践的な措置を積み重ねることこそが重要と考えています。

核兵器使用の非人道性についての正しい認識を得るためには、被爆地を実際に訪れることが特に重要です。

本年5月、オバマ大統領が広島を訪問しました。そして、安倍総理大臣と共に核兵器のない世界の実現に向けた力強いメッセージを發しました。

本年4月にG7外相会合で發出された「広島宣言」とともに、被爆地から發せられたこのメッセージは、世界中の人々に大きな希望を与えたものと確信しております。

この会議から同様のメッセージが世界に發出されることを希望します。

被爆の実相を知る日本とカザフスタンは、核兵

器のない世界の実現に向けて協力して取り組んでいます。特に力を入れているのが、核実験の禁止を定めた包括的核実験禁止条約（CTBT）の早期発効です。

両国は、昨年からCTBT発効促進共同調整国を務めています。また、二度にわたり北朝鮮の核実験に対し強い遺憾の意を表明し、CTBTの早期発効の重要性を呼びかける共同声明を出しています。このような活動を通じて、核実験禁止の規範を強めるとともに、CTBTの早期発効を目指しています。

来月には国連において第9回CTBTフレンズ外相会合が開催予定です。CTBTフレンズのメンバー国である日本としては、各国の参加とCTBTの早期発効に向けた協力を求めます。

また、CTBTの発効までの間に、すべての核保有国が改めて核実験モラトリアムへのコミットメントを宣言する政治声明を出すことを求めたいと思います。

最後に、我が国としては、今般の会議が参加者の皆様にとって被爆の実相に関する理解を深める貴重な機会となるとともに、その理解を更に皆様

の国においても是非広めていただければと願っています。

また、同じく被爆の実相に関する正確な認識を深めるべく、広島や長崎にも足を運んで頂きたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。